

利用しやすくなります
市民バス「モバス」と

デマンド交通「ふれあい」

10月2日⑨から、市民バス「モバス」とデマンド交通「ふれあい」の運行内容が変更となります。これに伴い、時刻表やバス路線図等を掲載した「茂原市交通マップ」(平成29年10月2日改訂版)を作成しましたので、ぜひご利用ください。

「茂原市交通マップ」は、市民バス車内をはじめ、市内の各公共施設等に設置しています。

お問い合わせは、
都市計画課(8階)

☎(20)1546、FAX(20)1606へ。

「市長と話し合う会」を開催します



市では、市民の皆さんの声を広く伺うため、「市長と話し合う会」を開催します。

本年度は、開催方法をリニューアルします。事前要望の受け付けは行わず、今後設定するテーマに沿って意見交換を行います。

参加を希望される方は、直接会場にお越しください。自由な雰囲気で見聞交換が行われるよう、皆様のご配慮をお願いします。

◆開催日時 11月19日⑩ 13時30分～16時

◆開催場所・定員 市役所市民室・150人

※意見交換のテーマについては、広報もばら11月1日号でお知らせします

お問い合わせは、秘書広報課(3階)
☎(20)1512、FAX(20)1601へ。

市長が行く

豊洲市場の

二の舞にならないために



茂原市長 田中豊彦

今少子高齢化の流れの中で、人口増を願う新治地区にニュータウンを造ろうという構想が地権者を中心として持ち上がっています。圏央道が開通し、茂原北インターチェンジができましたが、そこから車で5～6分の場所に、住宅戸数243戸と野球場3面の施設を造るという計画で、人口増に貢献できるのではという期待もあります。

以前にも、ここにニュータウンを造ろうという動きがあったのですが、バブルが崩れ、土地神話が崩れ、ニュータウンを造っても売れないことが想定されたため、中止を余儀なくされた経緯がありました。国は地方創生の名のもとに、地方へ人口増を求めてきています。しかし、ニュータウンを造ったからといって、それを人口増につなげるためには、さらなる努力が必要とされるでしょう。

それはそれとして私が気になるのは、新治のニュータウン構想では、野球場の下に再生土を入れて造成することが計画されているということです。実は一昨年、市内川戸地区に埋め立てをした場所から、安全だと言われた再生砂の中にダイオキシシンや塩化物が含まれていたことが後で判明し、1万6千㎡の再生砂を撤去した事例がありました。埋め立てをした下流の地域には水田があり、稲刈り前に立ち枯れが広がり始めたため、出荷制限がなされ、その米が流通するなどの被害は起きませんでした。しかしそれでも、農家の方々は補償されたとはいえ、とても不愉快な経験をされたわけですし、埋め立てをした業者や再生砂を製造した業者は各農家への賠償のほか、1万6千㎡の再生砂の撤去に多額の処理費がかかり、大きな代償を支払いました。

その現場を私も見ましたが、稲穂が異様に変色していても不気味でした。

そのような体験から、再生砂等の安全性には不安を感じます。まして、今回の新治の野球場では40万㎡の土が用いられるそうで、川戸地区の約25倍となります。この事業は県が許可すれば可能となってしまうのですが、茂原市としては、再生土ではなく、現場で出た土を調整して整地してくられた方がありがたいのです。もしそれがかなわないのであれば、万が一の事態が起きた場合の補償を業者に強くお願いしたいと思えます。東京都の豊洲市場もいざオープンというところで汚染問題が表面化しました。その二の舞にならないためにも、慎重に進めていきたい案件であります。

※再生土＝新治のニュータウンで使われる、建設汚泥をリサイクルした土
※再生砂＝川戸地区に埋め立てられた、焼却灰をリサイクルした砂